

令和5年度

一宮小学校
「学力向上実行プラン」

- ①自ら考え、主体的に学習に取り組む授業の実践
- ②考えを伝え合い、学び合う授業の実践

学力向上推進員

阿部 玲子
(6年)

委員 教頭:高木修(支援) 教務主任:荒木哲夫(4年)

特別支援教育コーディネーター:阿部沙苗(支援)
1年:藤井愛華 2年:横田順子 3年:工藤圭貴
5年:森 聖也 養護助教諭:濱田莉々子

校長

松尾 みゆき



【各校の取組状況の把握について】

教員からの報告や提案、テスト、学校評価アンケートの結果等を元に、定期的に取り組状況の情報交換・見直しを行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目に学習に取り組む児童が多く、基礎的な読み書き・計算の力がついてきている。 ●文章を正確に読み取ったり活用したりすることに課題がある。語彙力が少ないため正しく伝えることが難しい。	・学年に応じた、読み・書き・計算の基礎的な力を確実に身に付けることができる。単元テストで、下学年は80点以上、上学年は70点以上が80%を維持する。 ・自分の意見を理由をつけて書いたり話したりすることができる。	・既習内容の復習を繰り返し実施する。作文や日記などには、既習漢字を積極的に使えるよう辞書を活用させる。 ・授業の中に、考えたり考えを伝えあったりする時間をとり、話して伝えたり要点を書きとめたりして学習内容の定着を図る。	・タブレットを常に準備し、調べ学習がすぐに行えるようにする。 ・決められた時間内に自分の考えをまとめ、友だちに伝えたり話し合ったりする。	・単元テストの基礎力は、指標を達成できているが、既習の学習を忘れていていることがある。家庭との連携で学習効果を高める傾向があった。 ・すきま時間を利用したミニテストを続けることでできることが増えた。	・タブレットを常に起動し、すぐに使えるようにして調べ学習等に活用する。 ・グループ学習を取り入れ、自分の意見を話す場を増やす。 ・根拠をもった意見が言えるように、問い直しをする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教師や友達の話や態度が身に付いてきた。 ●自分の考えに自信がなく、自分の言葉で表現したり、友だちの意見と比べながらよりよい考えを練りあげたり、書いて表現したりすることに課題がある。	・話し手がどんな内容の話をしているのかを理解しながら聞くことができる。 ・「わたしは、相手に分かりやすく書いたり話したりできる」(学校評価アンケート)の割合を70%以上にする。	・学年に応じた話す・聞くスキルを指導する中で、自分の考えに理由をつけて話すことを繰り返し指導する。 ・新聞記事の内容を読み取り、内容を伝えたり自分の意見を友だちに表現したりする活動を取り入れる。	・話す内容に応じて、その根拠となる事実を見つけられるようにする。 ・様々な文章を読んで、自分の考えを友だちに伝える活動を取り入れる。	・問われていることに対する答え方を手引きを用いて示すことで、話したり書いたりすることの手助けになっていた。 ・友だちの意見を聞いて、自分の考えをもつことに課題がある。	・学校全体で話し方・聞き方のルールを決めて、理由や根拠を入れた自分の意見が話せるようにする。また、話を聞くトレーニングを行う。 ・視覚的に支援できるツールを用いて考えのまとめに活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示されたことや与えられた課題に、真面目に落ち着いて取り組む。 ●課題に対して受け身で、計画的に取り組む解決しようとしたり難しいことに粘り強く取り組んだりする意欲に乏しい点に課題がある。	・学習準備をきちんとし、めあてをもって生き生きと学習に取り組むことができる。 ・学習状況を振り返り、課題解決できるように計画を立てることができる。	・本時のめあてをはっきりさせ、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・ポジティブな行動支援を行い、子どもが自信をもって自ら進んで課題を見つけられるよう支援する。	・めあてにあった振り返りを行い、自分が何を学習したのかがわかるようにする。 ・できたことを認め、学習への意欲を高める。	・友だち同士のポジティブな声かけが、意欲的な活動につながった。 ・毎時間の振り返りの時間が取れず、学習内容が理解できたかを把握しきれなかったこともあった。	・それぞれの活動に目的やめあてをもたせ、自分でできたことを振り返ることができるようにする。 ・振り返りを単元末、振り返りの内容、選択チェックなど多様化する。

令和5年度 学力向上ロードマップ

